



令和5年5月2日

### 今月の歌と〔共通事項〕

音楽科の学習指導要領において〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示したものです。「A表現」及び「B鑑賞」の指導の過程において、各事項と併せて十分な指導が行われるよう工夫することが必要です。

指導計画の作成に当たっては、表現及び鑑賞の各領域や「歌唱」「器楽」「音楽づくり」の各分野の事項と〔共通事項〕で示しているア「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力 イ 「知識」に関する資質・能力の関連を図り、年間を通じてこれらを継続的に取り扱うように工夫することが重要です。

これを受けて、今年度の今月の歌は、それぞれの曲の中で〔共通事項〕のうち「音楽を形づくっている要素」に偏りなく触れることができるよう、選曲しています。

また、毎月配付する楽譜には、学習のめあてと、指導のポイントを合わせて記載します。学級で指導するときに活用いただければ幸いです。

### 令和5年度 今月の歌

月	曲	音楽を形づくっている要素	音楽朝会
4月	校歌	旋律 リズム	5月9日
5月	ゴーゴーゴー	音の重なり	
6・7月	アオギリの歌	反復、呼びかけと答え	6月18日
9月	ありがとうの花	リズム 旋律	
10月	小さい秋見つけた	調（短調）	10月17日
11月	音楽のおくりもの	リズム	11月14日
12月	冬景色	拍子（4分の3拍子）	
1月	歌はぼくらの友だち	調（長調→短調→長調）	
2月	翼をだいて	旋律 速度 変化 呼びかけと答え 強弱	2月20日
3月	さようなら	フレーズ 強弱	

**学習指導要領において  
〔共通事項〕で示されている「音楽を形づくっている要素」の説明**  
(音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み)

音色	<p>声や楽器などから出すことができる様々な音の特徴である。音色についての学習では、身の回りの音、声や楽器の音色、歌い方や楽器の演奏の仕方による様々な音色などを扱うことが考えられる。</p>
リズム	<p>音楽の時間的なまとまりをつくったり、音楽の時間を刻んだりするものである。小学校では、主に「リズム・パターン」を扱う。リズムについての学習では、音符や休符を組み合わせた様々なリズム・パターン、例えば、「♪♪♪」などの同じ長さの音符を組み合わせたものを扱うことや、「♪♪♪」などの付点を含むもの、「♪♪♪」などのシンクペーションを扱うことや、言葉や身の回りの音に含まれているリズム・パターンを扱うことなどが考えられる。</p>
速度	<p>基準となる拍が繰り返される速さのことである。楽譜に「♩=96」と示された場合は、基準となる拍の四分音符を1分間に96回打つ速さであることを意味している。</p> <p>速度についての学習では、速い曲、遅い曲などの曲全体の速度、「速くなる、遅くなる」などの速度の変化を扱うことが考えられる。</p>
旋律	<p>音の連続的な高低の変化がリズムと組み合わせられ、あるまとまった表現を生み出しているものである。旋律についての学習では、上行、下行、山型、谷型、一つの音に留まるなどの音の動き方や、順次進行、跳躍進行などの音の連なり方を扱うことが考えられる。</p>
強弱	<p>音量のように数値で表されるものや、曲の各部分で相対的に感じられるものである音色などに関わって、力強い音、優しい音などの音の質感によって強弱が表されることもある。強弱についての学習では、音の強弱を表す「強く、少し強く、少し弱く、弱く」や、強弱の変化を表す「だんだん強く、だんだん弱く」「特定の音を強調して」などを扱うことが考えられる。</p>
音の重なり	<p>複数の音が同時に鳴り響いていることである。音の重なりについての学習では、複数の旋律やリズムに含まれる音、複数の高さの音が同時に鳴ることによって生まれる響きなどを扱うことが考えられる。</p>
和音の響き	<p>音の重なりのうち、長調や短調など主に調性のある音楽において音が重なることによって生まれる響きのことである。和音の響きについての学習では、長調や短調のⅠ、Ⅳ、Ⅴ及びⅤ7を中心とした和音などを扱うことが考えられる。</p>
音階	<p>ある音楽で用いられる基本的な音を高さの順に並べたものである。音階は、時代や地域、民族などによって様々な種類があり、それぞれの音楽を特徴付けている。音階についての学習では、長調の音階（長音階）、短調の音階（短音階）をはじめ、我が国の音楽に用いられる音階などを扱うことが考えられる。</p>

令和5年度授業改善実践研究校（音楽科）別添資料②

調	<p>ハ長調やイ短調などの調性のことであり、音階で特定の音を中心に位置付けることで、それぞれの音楽の特徴を生み出す重要なものの一つである。西洋音楽で使われている調は、長調と短調の2種類に代表される。中学年においてはハ長調を、高学年においてはハ長調及びイ短調を取り扱うこととしている。調についての学習では、長調と短調との違い、ハ長調とイ短調の視唱や視奏などを扱うことが考えられる。また、音楽づくりなどでは、調性にとられない音楽などを扱うことが考えられる。</p>
拍	<p>音楽に合わせて手拍子をしたり歩いたりすることができるような、一定の間隔をもって刻まれるものである。なお、間隔に伸び縮みが生じることもある。拍に着目した場合、「拍のある音楽」と「拍のない音楽」との二つに分けることができる。拍のある音楽についての学習では、いくつかの拍が一定のアクセントのパターンを伴って繰り返される拍子のある音楽や、拍子がない伝承の遊びうたなどを扱うことが考えられる。また、拍のない音楽についての学習では、我が国の民謡や諸外国の音楽、現代音楽などの中から、そのような特徴をもつ音楽を扱うことが考えられる。</p>
フレーズ	<p>音楽の流れの中で、自然に区切られるまとまりを示している。フレーズについての学習では、歌詞の切れ目やブレス（息継ぎ）によって区切られるまとまり、数個の音やリズムからなる小さなまとまり、これらがいくつかつながった大きなまとまりなどを扱うことが考えられる。</p>
反復	<p>リズムや旋律などが繰り返される仕組みである。反復についての学習では、リズムや旋律などが連続して繰り返される反復、A-B-A-C-Aの「A」などに見られる合間をおいて繰り返される反復、A-B-Aの三部形式の「A」などに見られる再現による反復などを扱うことが考えられる。</p>
呼びかけとこたえ	<p>ある音やフレーズ、旋律に対して、一方の音やフレーズ、旋律がこたえるという、呼応する関係にあるものを示している。呼びかけとこたえについての学習では、ある呼びかけに対して模倣でこたえるもの、ある呼びかけに対して性格の異なった音やフレーズまたは旋律でこたえるもの、短く合いの手を入れるもの、一人が呼びかけてそれに大勢がこたえるものなどを扱うことが考えられる。</p>
変化	<p>音楽を形づくっている要素の表れ方や関わり合いが変わることによって起こるものである。変化についての学習では、リズムや旋律などが反復した後異なるものが続く変化、変奏のようにリズムや旋律などが少しずつ変わる変化などを扱うことが考えられる。</p>
音楽の縦と横との関係	<p>音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考え、その縦と横との織りなす関係を示している。音楽の縦と横との関係についての学習では、輪唱（カノン）のように同じ旋律がずれて重なったり、二つの異なる旋律が同時に重なったり、はじめは一つの旋律だったものが、途中から二つの旋律に分かれて重なったりするものなどを取り扱うことが考えられる。</p>